

V-FRONT Training Guide

Re 2. Quick installation using 
automatic shell



V-FRONT システムの動作環境

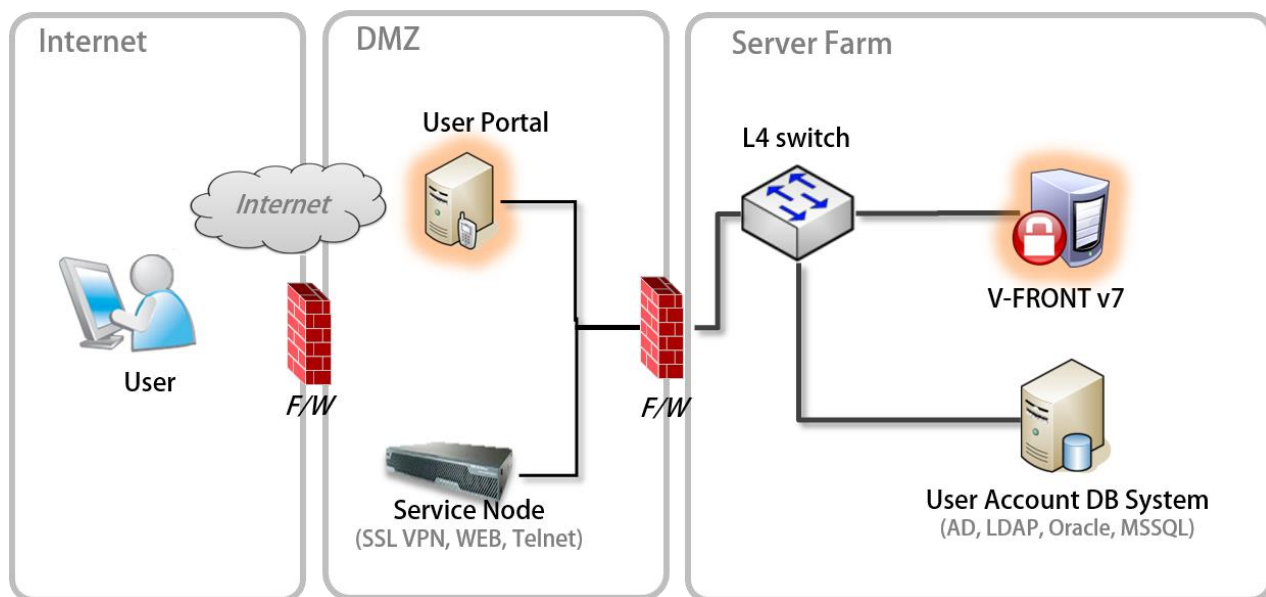
- OS: **CentOS 6.4 64bit (Supports 6.4 – 6.9)**
- CPU: **Quad Core 3.1Ghz(4 Core x 1CPU)**
- Memory: **8GB or higher**
- HDD: **500GB**
- 推奨ブラウザ: **IE 10, Chrome**

パッケージの内容

- V-FRONT RPM: V-FRONT-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm
- V-FRONT install shell: **admin_offline_setup.sh**
- User-Portal RPM: V-FRONT-Portal-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm
- User-Portal install shell: **users_offline_setup.sh**



V-FRONT v7 Architecture



1. V-FRONT v7 (認証サーバ)

- マルチファクター認証(MFA)時のユーザアカウントを管理します。
- ユーザのOTP取得方法を管理します。
- リスクベース認証をサポートします。
- 認証機能を提供します。

2. User Portal (ユーザによるユーザ情報管理サーバ)

- ユーザ端末の登録／管理機能を提供します。
- OTPアプリの登録／管理機能を提供します。

3. aircuve mobile アプリ (スマートフォン)

- PUSH、OTP、QR認証をサポートします。
- Android および iOSに対応します。

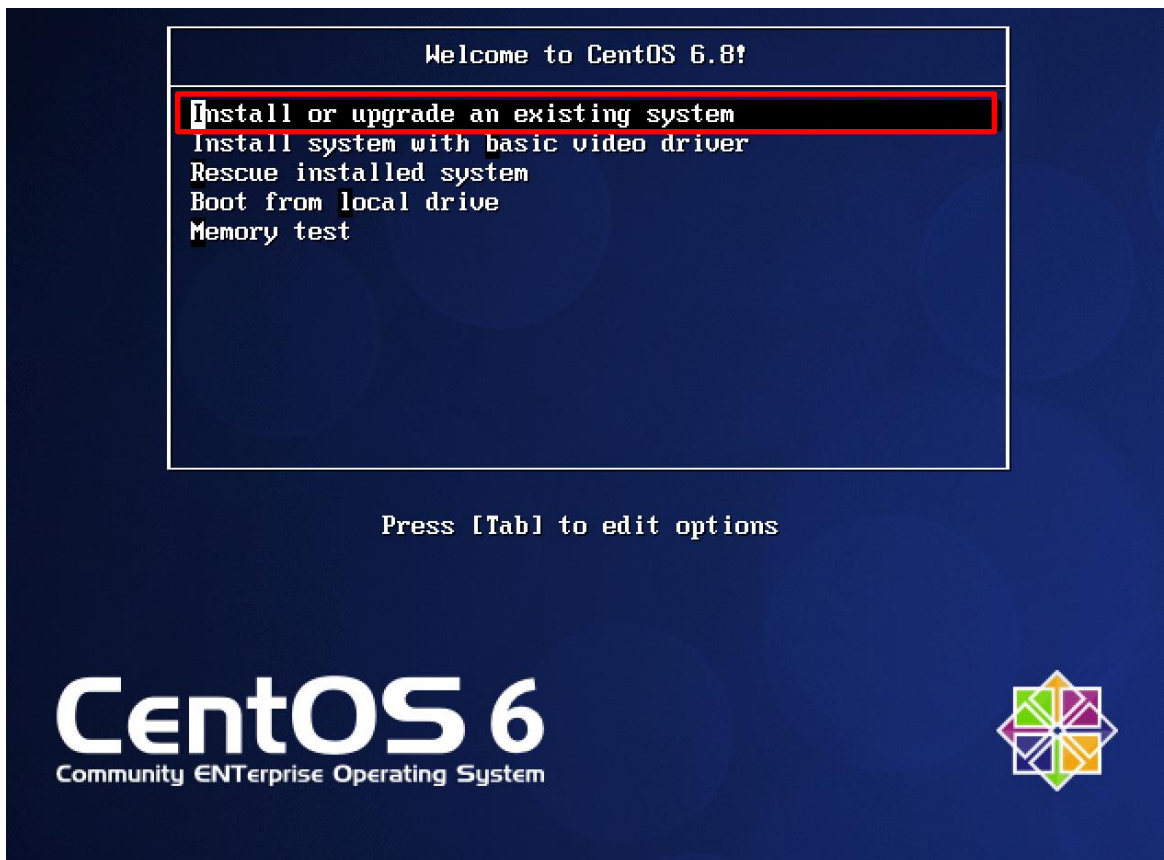


Server OS Installation & Settings



NO 1. CentOSをインストールします。

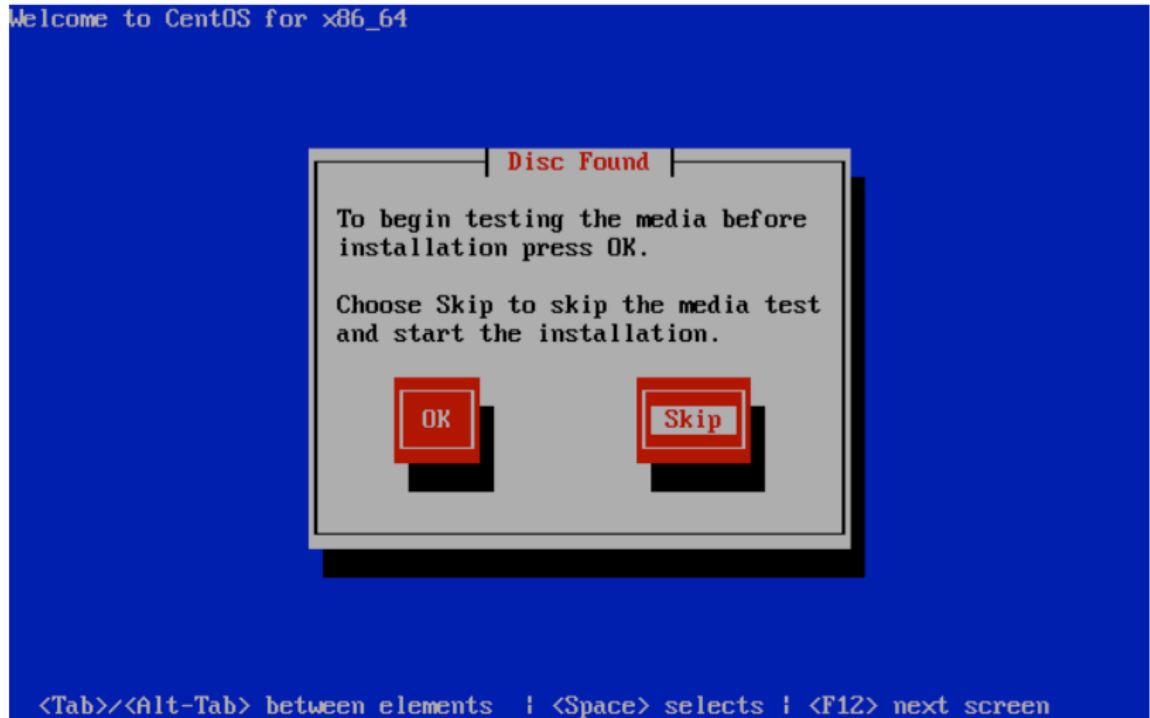
CentOS 6のインストールディスクをドライブに入れてコンピュータを起動します。以下の画面が現れるので「**Install or upgrade an existing system**」を選択します。





NO 2. メディアのテストをスキップします。

「Skip」ボタンをクリックして次へ進みます。



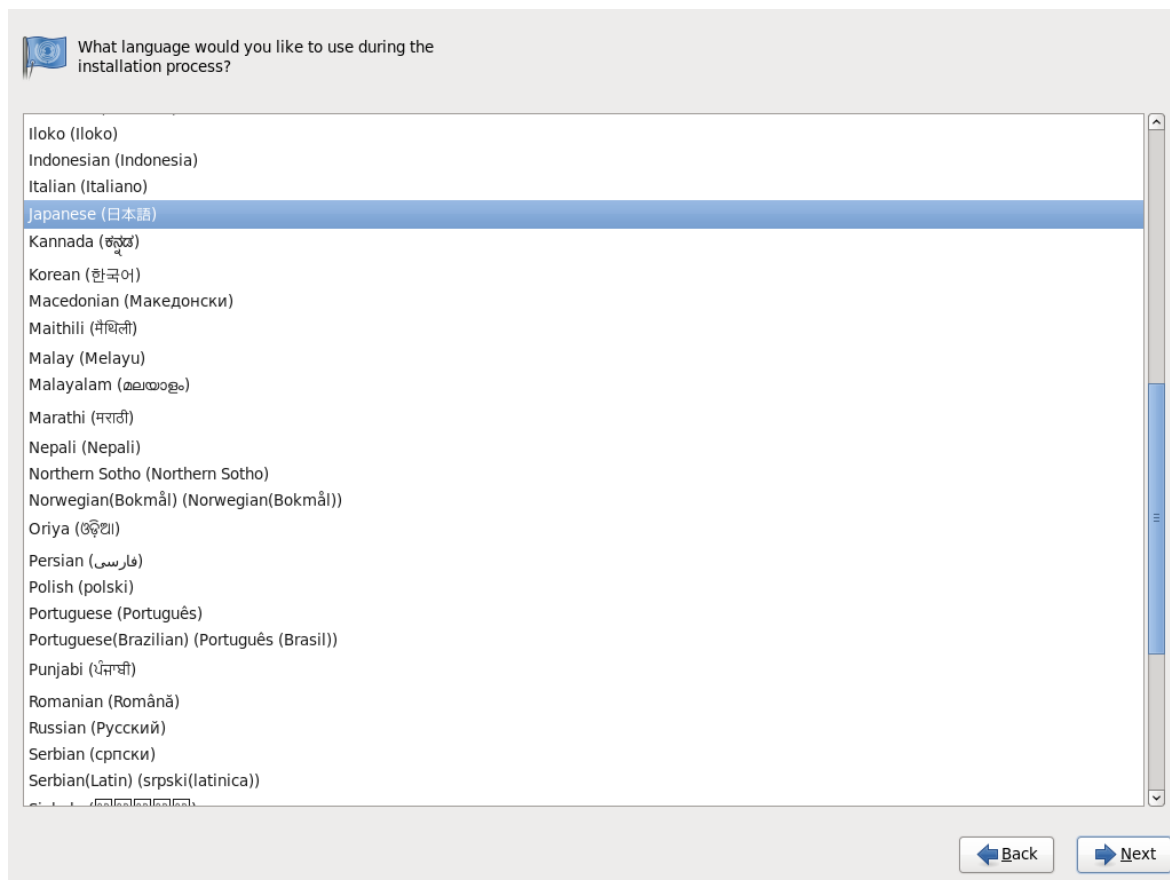


NO 3. 「Next」 ボタンをクリックして次へ進みます。



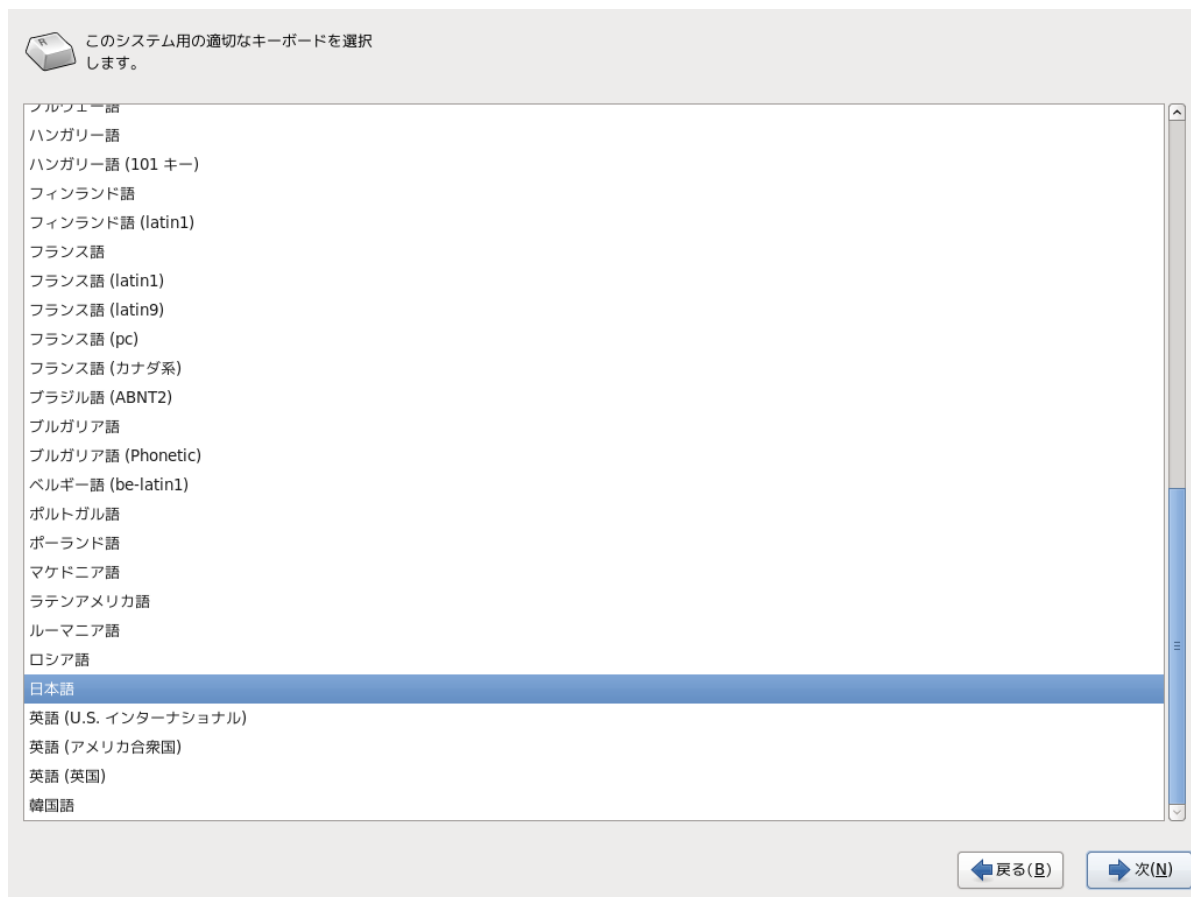


NO 4. インストール中の表示言語を選択します。





NO 5. 使用するキーボードを選択します。





NO 6. インストールするストレージとして「基本ストレージデバイス」を選択します。

どちらのタイプのストレージデバイスにインストールしますか？

基本ストレージデバイス

- ☒ 一般的なストレージデバイスにインストール、またはアップグレードします。どのオプションが正しいのか不明な場合は、これが適切でしょう。

エンタープライズストレージデバイス

- ☐ SAN (Storage Area Networks) などのエンタープライズデバイスに、インストールまたはアップグレードします。このオプションにより、FCoE / iSCSI / zFCP などのストレージデバイスを追加でき、インストーラーが無視すべきデバイスを選別します。

← 戻る(B)

→ 次(N)



NO 7. 「はい、含まれていません。どのようなデータであっても破棄してください。
(Y)」をクリックします。

ストレージデバイスの警告



以下のストレージデバイスは、有用なデータを含んでいるかもしれません。



VMware, VMware Virtual S
10240.0 MB pci-0000:00:10.0-scsi-0:0:0:0

このデバイス上のパーティションもしくはファイルシステムが検出できませんでした。

この場合、デバイスが**ブランク**か、**パーティション未定義**、もしくは**仮想**の場合が考えられます。デバイス上にデータが含まれている場合、今回インストールに使用するとデバイス上のデータは復元できなくなります。データを保護するために、インストール対象からデバイスを取り除くことができます。

このデバイス上に価値のあるデータは本当に含まれていませんか？

☒ 選択したすべてのデバイス（検出されていないパーティションもしくはファイルシステムを含む）に適用します。(A)

はい。含まれていません。どのようなデータであっても破棄してください。(Y)

いいえ。含まれています。どのようなデータであっても保護してください。(N)

戻る(B)

次(N)



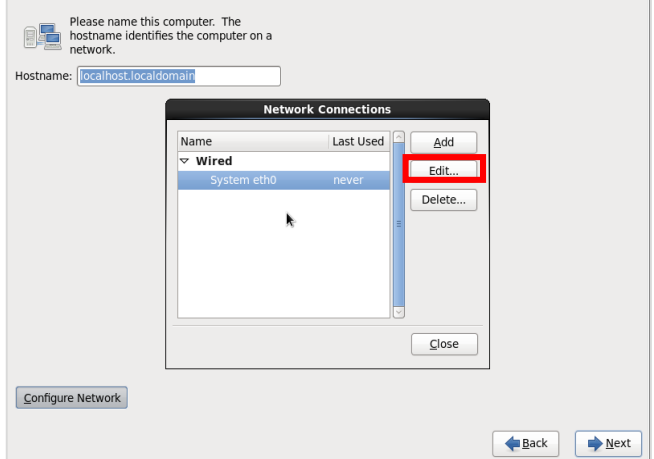
NO 8. [CASE 1] 固定IPアドレスを指定する場合

1. 「ネットワークの設定」ボタンをクリックします。
2. 「System eth0」を選択して、「編集」ボタンをクリックします。
3. 「自動接続する(A)」を選択して、「IPv4のセッティング」タブに移動します。
4. IPv4 セッティングで「手動」を選択し、IPアドレス、ネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバを設定します。

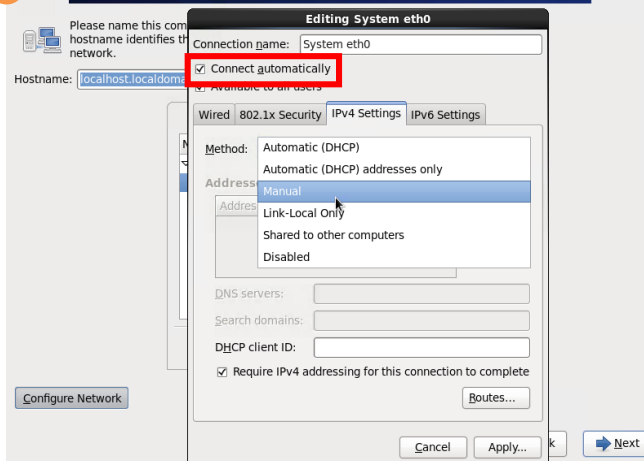
1



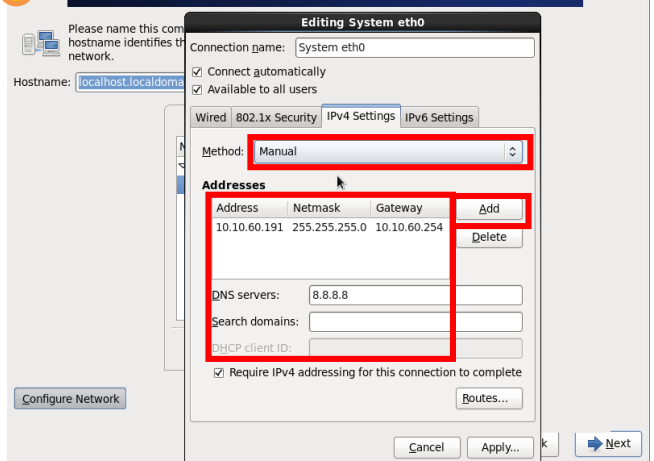
2



3



4

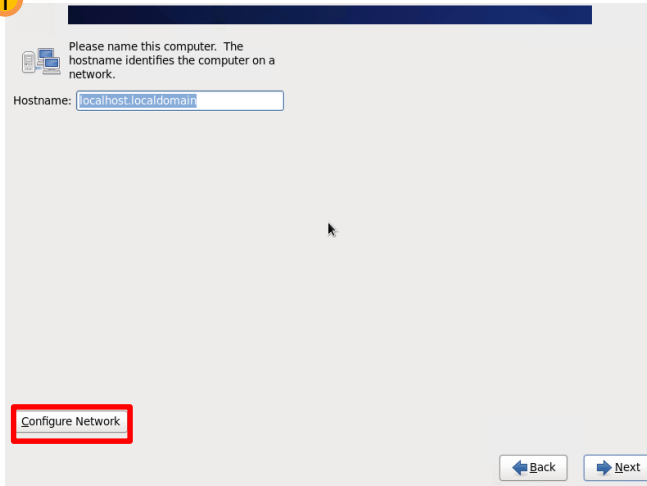




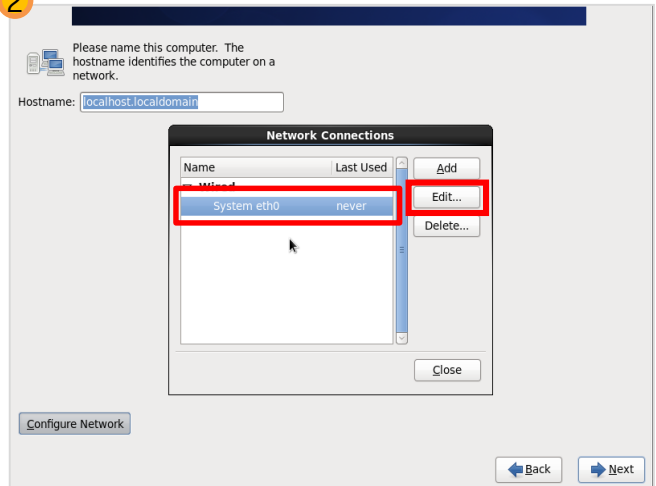
NO 8. [CASE 2] 動的IPアドレスを指定する場合

1. 「ネットワークの設定」 ボタンをクリックします。
2. 「System eth0」 を選択して、「編集」 ボタンをクリックします。
3. 「自動(DHCP)」 を選択します。

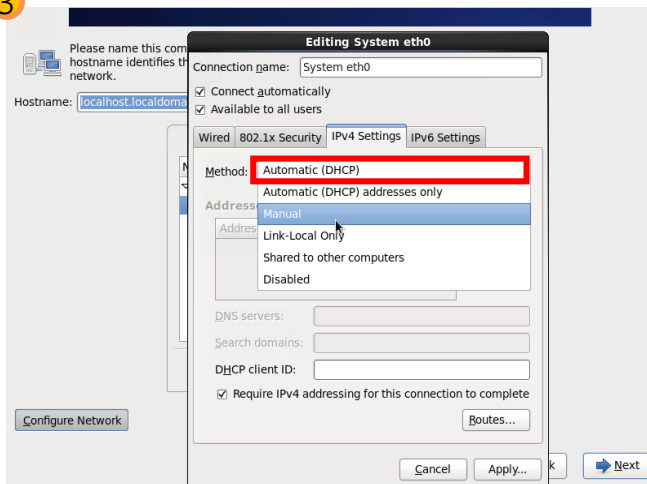
1



2



3





NO 9. ホスト名を入力して「次(N)」をクリックします。

'hosts'ファイルを編集してホスト名を変更しないでください。

 このコンピュータのホスト名を指定してください。ホスト名はネットワーク上でこのコンピュータを識別するために必要です。

ホスト名:

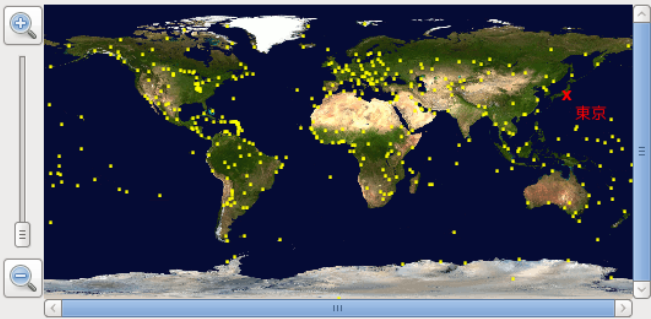
ネットワークの設定(C)

[← 戻る\(B\)](#) [→ 次\(N\)](#)



NO 10. タイムゾーンを選択します。

使用するタイムゾーンの中で一番近い都市を選択してください:



選択した都市: 東京, アジア

アジア/東京

☒ システムクロックで UTC を使用 (S)

戻る(B) 次(N)



NO 11. root ユーザのパスワードを設定します。



root ユーザーはシステムの管理用に使用します。 root ユーザーのパスワードを入力してください。

root パスワード(P):

確認(C):

← 戻る(B)

→ 次(N)



NO 12. インストールタイプとして、「既存のLinuxシステムを入れ替える」を選択します。

どのタイプのインストールをしますか？

- ☐  **すべての領域を使用する**
選択したデバイス上のすべてのパーティションを削除します。これには、他のオペレーティングシステムで作成されたパーティションも含まれます。
注意:このオプションは選択したデバイスからデータを削除します。バックアップがあることを確認してください。
- ☒  **既存の Linux システムを入れ替える**
選択したデバイス上の Linux のパーティションのみを削除します。これは、ストレージデバイス上にすでに存在する他のパーティション (VFAT や FAT32 など) は削除しません。
注意: このオプションは、選択したデバイスからデータを削除します。バックアップがあることを確認して下さい。
- ☐  **現在のシステムを縮小する**
現在のパーティションを縮小してデフォルトレイアウト用に空き領域を作成します。
- ☐  **空き領域を使用する**
現在のデータとパーティションを維持して、選択したデバイスに十分な空き領域がある場合は、その未設定領域のみを使用します。
- ☐  **カスタムレイアウトを作成する**
パーティション設定ツールを使用して選択したデバイス上に手動で個人設定のカスタムレイアウトを作成します。

- ☐ システムを暗号化する (E)
- ☐ パーティションのレイアウトをレビューまたは修正する (V)

← 戻る (B)

→ 次 (N)



NO 13. 「**変更をディスクに書き込む**」をクリックします。





NO 14. 「Basic Server」を選択して「次(N)」をクリックします。

必ず「Basic Server」を選択してください。

OSが提供する Mail / HTTP / SMB / MySql サーバ機能はインストールしないでください。

CentOS のデフォルトインストールは最小限インストールです。オプションとして追加のソフトウェアを選択することができます。

☐ Desktop
☐ Minimal Desktop
☐ Minimal
☒ Basic Server
☐ Database Server
☐ Web Server
☐ Virtual Host
☐ Software Development Workstation

ソフトウェアのインストールに必要な追加リポジトリを選択してください。

☒ CentOS

次のステップでソフトウェアの選択を詳細にカスタマイズすることができます。 またはインストール後にソフトウェア管理アプリケーションでカスタマイズを行うこともできます。

☒ 後でカスタマイズ(L) ☐ 今すぐカスタマイズ(C)



NO 15. インストールが進行します。





NO 16. OSのインストールが終了しました。 「再起動」ボタンをクリックしてください。



おめでとうございます。CentOS のインストールが完了しました。

インストールしたシステムを使用するために再起動してください。ご使用のシステムの機能が正常な動作を行うために更新パッケージが提供されている可能性があります。再起動の後にパッケージのアップデートを行うことが推奨されています。

← 戻る(B)

→ 再起動(I)



V-FRONT

Installation & Settings



NO 17. CentOSが再起動し、ログイン画面が表示されます。
root ユーザでログインしてください。

```
CentOS release 6.8 (Final)
Kernel 2.6.32-642.el6.x86_64 on an x86_64

VFront-v7-201702 login: root
Password:
```



NO 18. **vfront_package_170726.tar** ファイルをサーバに転送します。

7. **vfront_package_170726.tar** ファイルを **vfront_package_170726.tar** にリネームしてください。

scp などを利用して **vfront_package_170726.tar** ファイルをV-FRONTサーバの rootディレクトリに転送します。

```
# scp ./vfront_package_170726.tar root@[vfront ip address]:.
```

- ・ **vfront_package_170726.tar** には V-FRONT 本体とインストール用ファイルが含まれています。
- ・ ファイルの転送先として root ユーザのルートディレクトリ(/root)を指定してください。



NO 19. **vfront_package_170726.tar** ファイルを展開します。

/rootディレクトリで **vfront_package_170726.tar** ファイルを展開します。
展開後 **vfront_package** ディレクトリが生成されます。

```
# cd /root  
# tar -xvf vfront_package_170726.tar
```

```
[root@vfront ~]# tar xvf vfront_package_170726.tar  
vfront_package/  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-devel.rpm  
vfront_package/net-snmp-libs-5.5-60.el6.x86_64.rpm  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-shared.rpm  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-server.rpm  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-client.rpm  
vfront_package/perl-DBD-MySQL-4.013-3.el6.x86_64.rpm  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-common.rpm  
vfront_package/admin_offline_setup.sh  
vfront_package/V-FRONT-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm  
vfront_package/MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-compat.rpm  
[root@vfront ~]#
```



NO 20. **vfront_package** ディレクトリに移動します。

cd vfront_package

```
[root@vfront ~]# cd vfront_package
[root@vfront vfront_package]# ll
total 448720
-rwxr-xr-x 1 root root    6338 Jul 26 17:39 admin_offline_setup.sh
-rwxr-xr-x 1 root root 10657708 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-client.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root   23688 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-common.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root  2788460 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-compat.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root  6026536 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-devel.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root 46107708 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-server.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root  1199512 Jun 22 17:59 MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-shared.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root  1624076 Jun 22 17:29 net-snmp-libs-5.5-60.el6.x86_64.rpm
-rwxr-xr-x 1 root root   137008 Jun 22 18:04 perl-DBD-MySQL-4.013-3.el6.x86_64.rpm
-rw-r--r-- 1 root root 390902644 Jul 27 15:27 V-FRONT-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm
[root@vfront vfront_package]#
```



NO 21. **admin_offline_setup.sh** ファイルを実行します。

/root/V-FRONT_config ディレクトリに移動して **admin_offline_setup.sh** ファイルを実行します。

```
# cd /root/V-FRONT_config
# sh ./admin_offline_setup.sh
```

```
[root@VFRONT7 vfront_package]# sh admin_offline_setup.sh
1. hostname configuration...
ip address : 10.10.20.175
host name : VFRONT7
Complete input hosts file
2. SNMP Install.
warning: net-snmp-libs-5.5-60.el6.x86_64.rpm: Header V3 RSA/SHA1 Signature, key ID c105b9de: NOKEY
Preparing...##### [100%]
1:net-snmp-libs##### [100%]
SNMP install complete
3.Selinux configuration..
cp /etc/selinux/config -> /etc/selinux/config.org
Complete SELINUX config...
4. Firewall configuration...
iptables: Saving firewall rules to /etc/sysconfig/iptables:[ OK ]
iptables: Setting chains to policy ACCEPT: filter [ OK ]
iptables: Flushing firewall rules: [ OK ]
iptables: Unloading modules: [ OK ]
iptables: Applying firewall rules: [ OK ]
5. DB Installing&configuration...
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-compat.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-compat-5.5.54-1.el6
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-devel.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-devel-5.5.54-1.el6
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-common.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-common-5.5.54-1.el6
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-client.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-client-5.5.54-1.el6
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-shared.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-shared-5.5.54-1.el6
warning: MariaDB-5.5.54-centos6-x86_64-server.rpm: Header V4 DSA/SHA1 Signature, key ID 1bb943db: NOKEY
Preparing packages for installation...
MariaDB-server-5.5.54-1.el6
chown: cannot access '/var/lib/mysql': No such file or directory
170821 14:17:29 [Note] /usr/sbin/mysqld (mysqld 5.5.54-MariaDB) starting as process 2094 ...
170821 14:17:30 [Note] /usr/sbin/mysqld (mysqld 5.5.54-MariaDB) starting as process 2103 ...

PLEASE REMEMBER TO SET A PASSWORD FOR THE MariaDB root USER !
To do so, start the server, then issue the following commands:

'/usr/bin/mysqladmin' -u root password 'new-password'
'/usr/bin/mysqladmin' -u root -h VFRONT7 password 'new-password'

Alternatively you can run:
'/usr/bin/mysql_secure_installation'

which will also give you the option of removing the test
databases and anonymous user created by default. This is
strongly recommended for production servers.

See the MariaDB Knowledgebase at http://mariadb.com/kb or the
MySQL manual for more instructions.

Please report any problems at http://mariadb.org/jira
```

admin_offline_setup.sh の実行内容

1. hostname設定
2. SNMPインストール
3. SELINUX設定
4. Firewall設定
5. DB設定
6. V-FRONT RPMインストール

ほかに許可したいport番号がある場合は、
'/etc/sysconfig/iptables' ファイルを修正してください。
vi /etc/sysconfig/iptables



NO 22. MySQLを設定します。

```
[ENTER] key [ENTER] key
n          [ENTER] key
y          [ENTER] key
y          [ENTER] key
y          [ENTER] key
y          [ENTER] key
```

```
Please enter in order
Enter - n - Y - Y - Y - Y
/usr/bin/mysql_secure_installation: line 379: find_mysql_client: command not found

NOTE: RUNNING ALL PARTS OF THIS SCRIPT IS RECOMMENDED FOR ALL MariaDB
SERVERS IN PRODUCTION USE! PLEASE READ EACH STEP CAREFULLY!

In order to log into MariaDB to secure it, we'll need the current
password for the root user. If you've just installed MariaDB, and
you haven't set the root password yet, the password will be blank,
so you should just press enter here.

Enter current password for root (enter for none): [ENTER]
OK, successfully used password, moving on...

Setting the root password ensures that nobody can log into the MariaDB
root user without the proper authorisation.

Set root password? [Y/n] n
... skipping.

By default, a MariaDB installation has an anonymous user, allowing anyone
to log into MariaDB without having to have a user account created for
them. This is intended only for testing, and to make the installation
go a bit smoother. You should remove them before moving into a
production environment.

Remove anonymous users? [Y/n] y
... Success!

Normally, root should only be allowed to connect from 'localhost'. This
ensures that someone cannot guess at the root password from the network.

Disallow root login remotely? [Y/n] y
... Success!

By default, MariaDB comes with a database named 'test' that anyone can
access. This is also intended only for testing, and should be removed
before moving into a production environment.

Remove test database and access to it? [Y/n] y
- Dropping test database...
... Success!
- Removing privileges on test database...
... Success!

Reloading the privilege tables will ensure that all changes made so far
will take effect immediately.

Reload privilege tables now? [Y/n] y
... Success!

Cleaning up...

All done! If you've completed all of the above steps, your MariaDB
installation should now be secure.

Thanks for using MariaDB!
6. start service configuration
RPM installing start
Preparing... ##### [100%]
1:V-FRONT-intel-linux-Cen## ( 6%)
```



NO 23. 管理者ページの言語を選択します。

ja

```
6. start service configuration
RPM installing start
Preparing... ##### [100%]
1:V-FRONT-intel-linux-Cen3##### [100%]
Create Root CA & Radius Server CA
certificate initialized.....
newCA.pl [OK]
downCA [OK]
CRL list [OK]
PKCS#12 [OK]
DER [OK]
SERVER_PK [OK]
RADIUS_PK [OK]
Restart Database
Shutting down MySQL....[ OK ]
Starting MySQL170821 14:22:57 mysqld_safe Logging to '/var/lib/mysql/VFRONT7.err'.
.170821 14:22:57 mysqld_safe Starting mysqld daemon with databases from /var/lib/mysql
..[ OK ]
V-FRONT Language Setup
Defulut Locale (engine-common.cfg): $INCLUDE ${confdir}/error_string_en.utf-8 #error_string {
Defalut Locale (servlet-context.xml): <beans:property name="defaultLocale" value="ko"/>
Input Language Nation Code (en/ko/ja) :
en
INPUT LANG : 3en
Invalid Input. Set Default Language (en)
Engine common.cfg Language (en) Change
WEB servlet-context.xml Language (en) Change
Starting AAAD Authenticate process:
running ( 2682 ) ...
Starting AAAD Accounting process:
running ( 2758 ) ...
Starting OSCP Responder: Done.
Starting AAAMON process:
running ( 2823 ) ...
Using CATALINA_BASE: /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_HOME: /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_TMPDIR: /opt/aircuve/ext/tomcat/temp
Using JRE_HOME: /opt/aircuve/ext/jdk
Using CLASSPATH: /opt/aircuve/ext/tomcat/bin/bootstrap.jar:/opt/aircuve/ext/tomcat/bin/to
Tomcat started.
Starting NASCHK process:
running ( 2884 ) ...
You are now complete to install the package.
When system rebooting, proceed with RPM installation complete
reboot at 10 seconds
```

インストールが完了すると、V-FRONTサーバは再起動されます。



User Portal Installation & Settings



NO 1. CentOS 6.8 (64 bit) をインストールします。

CentOS 6.8(64bit) を User Portal サーバにインストールします。
CentOSのインストール手順については、本書のV-FRONTインストレーションを参照してください。





NO 2. CentOSのインストール後、サーバが再起動しましたら root ユーザでログインします。

```
CentOS release 6.8 (Final)  
Kernel 2.6.32-642.el6.x86_64 on an x86_64  
  
UserPortal-v7-201702 login: root  
Password: _
```




NO 3. **portal_package_170726.tar** ファイルをUserPortalサーバに転送します。

6. **portal_package_170726.tar** ファイルを **portal_package_170726.tar** にリネームしてください。

scp などを利用して **portal_package_170726.tar** ファイルを UserPortalサーバの rootディレクトリに転送します。

```
# scp ./portal_package_170726.tar root@[userportal ip address]:.
```

- ・ **portal_package_170726.tar** には User Portal 本体とインストール用ファイルが含まれています。
- ・ ファイルの転送先として、root ユーザのルートディレクトリ(/root)を指定してください。



NO 4. **portal_package_170726.tar** ファイルを展開します。

/rootディレクトリで、**portal_package_170726.tar** ファイルを展開します。
展開後 **portal_package** ディレクトリが生成されます。

```
# cd /root  
# tar -xvf portal_package_170726.tar
```

```
[root@userportal ~]# tar xvf portal_package_170726.tar  
portal_package/  
portal_package/users_offline_setup.sh  
portal_package/rpms/  
portal_package/rpms/net-snmp-libs/  
portal_package/rpms/net-snmp-libs/openssl-1.0.1e-48.el6_8.1.x86_64.rpm  
portal_package/rpms/net-snmp-libs/net-snmp-libs-5.5-57.el6.x86_64.rpm  
portal_package/rpms/net-snmp-libs/lm_sensors-libs-3.1.1-17.el6.x86_64.rpm  
portal_package/rpms/net-snmp-libs/net-snmp-libs_install.sh  
portal_package/U-FRONT-Portal-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm  
[root@userportal ~]#
```



NO 5. **portal_package** ディレクトリに移動します。

cd portal_package

```
[root@userportal ~]# cd portal_package
[root@userportal portal_package]# ls -lR
.:
total 211976
drwxr-xr-x. 3 root root      4096 Jun 22 18:10 rpms
-rwxr-xr-x. 1 root root      6131 Jul 26 17:33 users_offline_setup.sh
-rw-r--r--. 1 root root 217046028 Jul  6 15:28 V-FRONT-Portal-intel-linux-CentOS6-7.1.0-1.3.x86_64.rpm

./rpms:
total 4
drwxr-xr-x. 2 root root 4096 Jul 26 17:45 net-snmp-libs

./rpms/net-snmp-libs:
total 3196
-rw-r--r--. 1 root root  38768 Jul  6 2016 lm_sensors-libs-3.1.1-17.el6.x86_64.rpm
-rw-r--r--. 1 root root 1623632 Jul  6 2016 net-snmp-libs-5.5-57.el6.x86_64.rpm
-rwxr-xr-x. 1 root root   1093 Jul 26 17:45 net-snmp-libs_install.sh
-rw-r--r--. 1 root root 1597532 Jul  6 2016 openssl-1.0.1e-48.el6_8.1.x86_64.rpm
[root@userportal portal_package]#
```



NO 6. **users_offline_setup.sh** ファイルを実行します。

/root/portal_package ディレクトリに移動して **users_offline_setup.sh** ファイルを実行します。

```
# cd /root/portal_package
# sh ./users_offline_setup.sh
```

```
[root@UserPortal7 portal_package]# sh users_offline_setup.sh
1. hostname configuration...
ip address : 10.10.20.175
host name : UserPortal7
Complete input hosts file
2. SNMP Install..
warning: /root/portal_package/rpms/net-snmp-libs/openssl-1.0.1e-48.el6_8.1.x86_64.rpm: Header V3 RSA/SHA1 Signature, key ID c105b9de: NOKEY
Preparing packages for installation...
openssl-1.0.1e-48.el6_8.1
- openssl install complete
warning: /root/portal_package/rpms/net-snmp-libs/lm_sensors-libs-3.1.1-17.el6.x86_64.rpm: Header V3 RSA/SHA1 Signature, key ID c105b9de: NOKEY
Preparing packages for installation...
lm_sensors-libs-3.1.1-17.el6
- lm_sensors install complete
warning: /root/portal_package/rpms/net-snmp-libs/net-snmp-libs-5.5-57.el6.x86_64.rpm: Header V3 RSA/SHA1 Signature, key ID c105b9de: NOKEY
Preparing packages for installation...
net-snmp-libs-5.5-57.el6
- net-snmp-libs install complete
SNMP install complete
3. Selinux configuration...
cp /etc/selinux/config -> /etc/selinux/config.org
Complete SELINUX config...
4. Firewall configuration...
iptables: Saving firewall rules to /etc/sysconfig/iptables:[ OK ]
iptables: Setting chains to policy ACCEPT: filter [ OK ]
iptables: Flushing firewall rules: [ OK ]
iptables: Unloading modules: [ OK ]
iptables: Applying firewall rules: [ OK ]
5. start service configuration
RPM installing start
Preparing... ##### [100%]
1:V-FRONT-Portal-intel-li##### [100%]
Tomcat started.
You are now complete to install the package.
```

users_offline_setup.sh の実行内容

1. hostname設定
2. SNMPインストール
3. SELINUX設定
4. Firewall設定
5. User-Portal RPMインストール

ほかに許可したいport番号がある場合は、
'/etc/sysconfig/iptables' ファイルを修正してください。

```
# vi /etc/sysconfig/iptables
```



NO 7. 各サーバのIP addressを設定します。

Input your vfront server IP

Input your user-portal server IP

```
You are now complete to install the package.
Setting V-FRONT server and User-Portal server!
input vfront server ip address :
10.10.10.2
###Your V-FRONT Server IP address is 10.10.10.2
input User-Portal server ip address :
10.10.10.3
###Your User-Portal Server IP address is 10.10.10.3
Complete vfront_controller XML file Configuration...
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<vfront>
  <module name="user_portal">
    <vfront_interface>/vfront.do?cmd=</vfront_interface>
    <vfront_motp_interface>/motp.do?cmd=</vfront_motp_interface>
    <vpn_interface>/vpn.do?cmd=</vpn_interface>
    <hwotp_interface>/hwotp.do?cmd=</hwotp_interface>
    <twoAuth_interface>/twoAuth.do?cmd=</twoAuth_interface>
    <send_initial_OTP>3</send_initial_OTP>
    <scenario>0</scenario>
  </module>
  <vfront_server>https://10.10.10.2</vfront_server>
  <vfront_server_ssl>https://10.10.10.2</vfront_server_ssl>
  <second_vfront_server_ssl>https://10.10.10.2</second_vfront_server_ssl>
  <vfront_userportal_server>https://10.10.10.3</vfront_userportal_server>
  <menu_control>001100</menu_control>
  <send_temp_password>1</send_temp_password>
  <language>en_US</language>
  <send_admin_ok>2</send_admin_ok>
  <push_ios_certificate>/opt/aircuve/APNS_Certificates.pl2</push_ios_certificate>
  <push_ios_certificate_pw>wj8rPzht9ajd</push_ios_certificate_pw>
  </module>
</vfront>
Using CATALINA_BASE:    /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_HOME:    /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_TMPDIR:  /opt/aircuve/ext/tomcat/temp
Using JRE_HOME:         /opt/aircuve/ext/jdk
Using CLASSPATH:        /opt/aircuve/ext/tomcat/bin/bootstrap.jar:/opt/aircuve/ext/tomcat/bin/tomcat-juli.jar
Using CATALINA_BASE:    /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_HOME:    /opt/aircuve/ext/tomcat
Using CATALINA_TMPDIR:  /opt/aircuve/ext/tomcat/temp
Using JRE_HOME:         /opt/aircuve/ext/jdk
Using CLASSPATH:        /opt/aircuve/ext/tomcat/bin/bootstrap.jar:/opt/aircuve/ext/tomcat/bin/tomcat-juli.jar
Tomcat started.
When system rebooting, proceed with RPM installation complete
reboot at 10 seconds
```

以上でUserPortalサーバのインストールは完了します。



V-FRONT Manager WEB Configuration



NO 1. V-FRONT 管理者ページへログイン

ログインURL <https://V-FRONT IP address>

A screenshot of the V-FRONT 7.0 login interface. The page has a dark blue background. In the center, there is a white rectangular box with a dark blue border. At the top of this box, the text "V-FRONT 7.0" is displayed. Below it, the title "Sign in" is centered. The form contains two input fields: "ID" and "Password". Below the "Password" field, there is a green "Sign in" button and a green circular button with a white checkmark.



NO 2. VPN 機器の登録

「機器管理」-「機器情報」ページに移動して「追加」ボタンをクリックします。

V-FRONT v7

HOME
ユーザー
レポート
システム管理
機器管理
機器情報
OAuth 設定

機器管理 / 機器情報

機器情報 ベンダー & モデル管理

追加 削除

Show 10 entries

	機器のIPアドレス	ベンダー	モデル
☐	10.10.10.90	AGS-Radius-Default	AGS-IP-PBX
☐	111.1.1.1	AGS-Radius-Default	AGS-IP-PBX

Showing 1 to 2 of 2 entries



NO 3. VPN機器のIPアドレスと Secret Key 等の情報を入力します。

機器管理

機器のIPアドレス

Secret Key

ベンダー

AGS-Radius-Default

モデル

AGS-IP-PBX

機器のタイプ

ip_pbx

認証方法

ID/OTP 認証

機器登録日

2017-04-24

説明

ロケーション

Loading ...

保存

取り消し



NO 4. ローカルDBにユーザを追加します。 ユーザID/Passwordなどの情報を入力します。

Local Users

ID

パスワード

パスワード再入力

名前

個人番号

部署

携帯番号

E-Mail

社外メール

状態

正常ユーザー

プロフィール

使用しない

使用期限

制限なし

時間ポリシー

使用しない

属性ポリシー

使用しない

ロケーション・ポリシー

使用しない

説明

保存

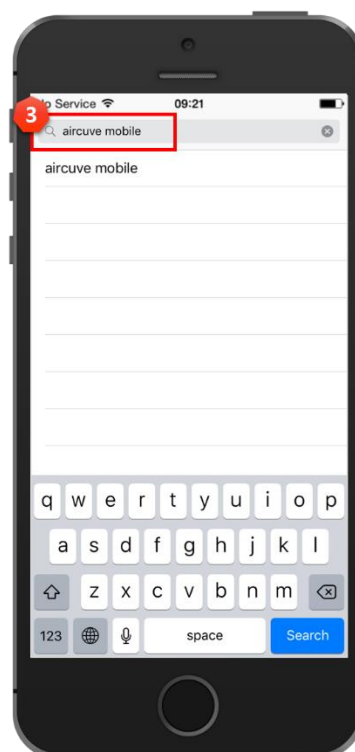
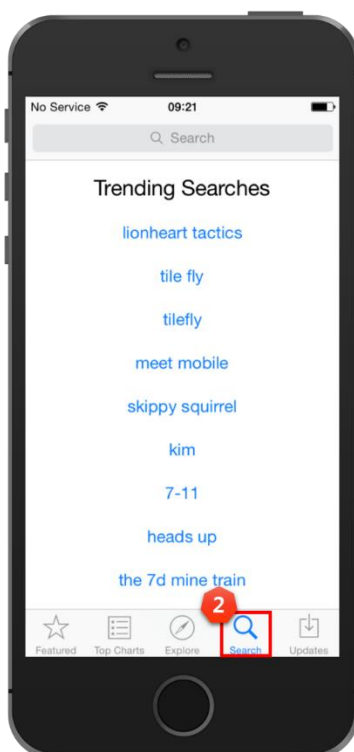
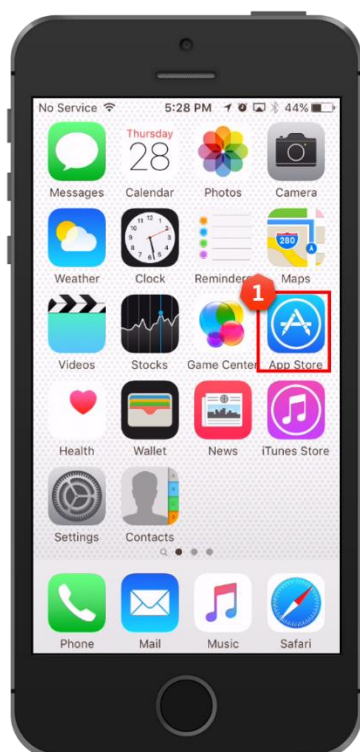
取り消し



aircuve mobile App Installation



NO 1. Google Play Store または Apple App Store から 「*aircuve mobile*」を検索します。





NO 2. 「aircuve mobile」アプリをインストールします。

